

「人」と「人」が交わるフリーマガジン

KRPPRESS 9

2013
vol.132
SEP

特集

KRP-WEEK 2013開催レポート

特別講演『「ミドリムシが地球を救う」でイノベーションを起こせ!』(株)ユーグレナ 出雲 充氏





8,800人が来場! イノベーションのヒントを探す9日間

7.26^{FRI} ▶ 8.3^{SAT} 全47イベント

KRP・WEEK 2013 開催レポート



- 7/26 ㊟ ● Startup Weekend Kyoto(7/26~28)
- 「クリエイティブ・テーブル」第3回
- 京都府中小企業技術センター 環境セミナー
～化学物質規制の最新動向～
- 地球環境関西フォーラム
"若者によるエコ・メッセージ"ポスター展示
(7/26・29～31, 8/1～3)
- クールスポット
- KRP賑わい村(7/26・29～8/3)
- 7/27 ㊟ ● 創業をデザインするためのワークショップ
- 京町家再生セミナー
- 7/29 ㊟ ● 京都バイオ計測センターシンポジウム
- 「テクノロジー&ビジネスプランコンテスト
in KYOTO」オープニングイベント
- 京都府中小企業技術センター
施設見学ツアー(7/29～31)
- コーチングコミュニケーション「傾聴力」
- 大阪ガスの夏休み親子教室
- KRP オフィス見学会(7/29, 8/2)

- 7/30 ㊟ ● 京都クラウドコレクション2013
- 「システム思考力」(管理職編)
社員の帰属意識が向上する組織づくり
- 今こそ、女心マネジメント。これからは、
女性の力を活かせる会社が勝つ!
- KRP セタまつり2013
- 7/31 ㊟ ● 同志社ビジネススクール MBA公開講座
- 公開会社を育てる
京都インデペンデンツクラブ
- 京都大学デザインイノベーション拠点
オープンアワー
- 第29回 七本松落語会
- 京都府中小企業技術センター
夕暮れ施設見学ツアー
- 8/1 ㊟ ● ビジネスミーティング・アジア 2013 in Kyoto
- 映像製作ワークショップ
～やってみよう! プロが教える映像レシビ～
- 京都府中小企業技術センター 研究発表会

- 京都府中小企業技術センター中セン体感ツアー
- 大阪ガスのエネルギー環境授業
- 8/2 ㊟ ● KRP WEEK 特別講演
「ミドリムシが地球を救う」で
イノベーションを起こせ!
- テナントさま交流・PR展示会
- オープンソースカンファレンス 2013 Kansai
@Kyoto(8/2～3)
- 機器活用オープンディ
- 京都府中小企業技術センター EMC技術セミナー
- グロービス流マーケティング入門
- 大阪ガス夏休み親子料理教室
- 京都職人工房 伝統工芸体験教室
- 8/3 ㊟ ● 京都市産業技術研究所
市民オープンセミナー
- Ruby@709.ch
- 京都府警察 ふれあいコンサート&
ミニサイバー 防犯教室

- 「食育シンポジウム」
～世界に誇る和の食文化～
- 京都の知恵のお取り寄せ
- 京都こだわりマルシェ
- 京の名店ワンコインフェスティバル
- 京の食文化ミュージアム・あじわい館
夏の宇治茶あじわい方教室
- Music all around♪
- スタンプラリー

※各イベントごとに主催・共催が異なります



KRP-WEEK 2013

主催：京都リサーチパーク（株）
後援：近畿経済産業局、京都府、
京都市、京都商工会議所

ビッグデータ活用や起業、IT、食育など多岐にわたる分野のセミナーやイベントが、KRP地区内外の団体・企業の主催、協力のもと開催された。全47のイベントに、延べ8,800人を超える来場者が集った今年のKRP-WEEKを振り返る。

特別講演 (株)ユーグレナ 出雲 充氏 「ミドリムシが地球を救う」でイノベーションを起こせ!

主催：KRP(株)

「ミドリムシ」の力を信じ続け、世界初の屋外大量培養に成功した(株)ユーグレナ。不可能といわれたことをどのように実現したのか、また、ベンチャーを志す人と支える人、双方へのメッセージが熱く語られた。

— 講演内容より —

ミドリムシは藻の一種ですが、動物と植物の特徴を併せ持ち、59種類の栄養素を含んでいます。日本では、国家プロジェクトによって1980年からミドリムシで栄養を摂取する研究が進められてきましたが、技術やコストの問題でなかなか事業化に至りませんでした。私は研究を重ね、2005年に世界で初めてミドリムシの屋外大量培養に成功し、ようやくミドリムシ製品を安定してお届けできるようになりました。

弊社では今、2つの事業を進めています。私が大学生の頃に訪れたバングラデシュでは、炭水化物は豊富にあるため飢餓で苦しんでいる人は多くありませんでした。しかし、動物性たんぱく質やカロテノイドその他の栄養素が極度に不足し、深刻な栄養失調が起きていました。栄養失調は世界の10億人が抱えている問題です。たとえば、牛や野菜や海産物を10億人に届けることは現在の技術ではできません。しかし、栄養素を豊富に含むミドリムシなら、10億人の人に届けられ、地球から栄養失調を根絶できます。これが弊社の「ミドリムシで地球を救う」1つ目の仕事です。

もう1つは、ミドリムシから航空燃料を作るプロジェクトです。地球温暖化の要因となるCO2を吸収して光合成で育つミドリムシから、循環型のバイオ燃料を作ろうとするものです。これは弊社単独のプロジェクトではなく、技術を開示してパートナー企業にご協力いただき、オープンイノベーションとして推進しています。

この世にくだらない仕事や研究はありません。私は2000年から



出雲 充氏 / (株)ユーグレナ 代表取締役社長

ミドリムシに取り組んできましたが、ほとんどの人が「くだらない」と言いました。けれど、それが本当にくだらないものであるかどうかを決めるのは本人なのです。新しい挑戦の成功率が1%とすると、失敗する可能性は99%。しかし2回チャレンジすれば、2回とも失敗する確率は99%の2乗。成功率は1.99%です。50回目には39%、100回だと63%成功する。459回挑戦した実験、研究、努力は、成功する可能性が99%になります。私は500社以上の会社に営業に行き、何度も実験や研究を繰り返しました。

ベンチャーとして新たなことに挑戦する皆様方には、それがどんなに難しい挑戦だとしても459回以上努力をして、ぜひイノベーションを起こしていただきたい。支援する側の方には「くだらないからやめなさい」ではなく、「どうすればそれが社会の役に立つか」という視点から、知恵や経験を活用して応援していただきたいです。そういうサポーターの方が京都にはたくさんいらっしゃるはずで、ぜひ京都からベンチャーをどんどん育成して、「日本のシリコンバレーは、KRPにあり」と言われるまで、起業を目指す方々へのご支援を続けていただきたいと思います。



京都バイオ計測センターシンポジウム 「生命のビッグデータの解釈とその社会への展開」

主催：京都市、(公財)京都高度技術研究所
協賛：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
(株)シーエムシー出版
(独)製品評価技術基盤機構
(一財)バイオインダストリー協会

「生命のビッグデータ」とは何か、どう活用するのか
産学公の研究や製品実用化に向けた第一歩

いま社会で大きく注目されている「ビッグデータ」。なかでも、生命や生物関連のビッグデータとは何か、どういう目的でどのように活用し、社会に還元していくのかをテーマに、生命科学や医学の分野で活躍する研究者7人による講演が行われた。バイオ計測プロジェクト長の植田充美教授は「いま生命のビッグデータは、マルチオミクスとコンピュータとのコラボ（融合）でしかなし得ない驚異的な解析の時代を迎えている。どういった形で処理し展開できるかをみなさんの講演で勉強したい」と挨拶。大学、研究機構、企業研究所、医療センターなどから遺伝子資源、細菌、海洋遺伝子、メタボローム（細胞内の全代謝物質の網羅的解析）、バイオマス、iPS細胞、プロテオーム（タンパク質の網羅的解析）に関する内容の講演が行われ、生命のビッグデータの資源・ものづくり・食品・健康・医療への活用の目的やその方法、解析方法について、研究報告や事例紹介、現状の問題点や未来予測などが話された。

出席者のおよそ60%が企業関係者
医療以外の新製品開発や産業振興へ期待感

ビッグデータの統計解析から得られる情報は、次世代の新薬開発にとどまらず、食品、飲料、バイオマスなどあらゆる分野での新製品開発や産業振興にも大きなインパクトを持つだけに、ほぼ満席の会場のおよそ6割が企業関係者。講演後の質疑応答も活発に行われ、アカデミアのみならず産業界からの高い関心が感じられた。同日の午前にも実施されたKISTIC内「京都バイオ計測センター」の見学会ではワンフロアでビッグデータ解析が連続的に行え、完結する同センターの分析装置を紹介した。参加者の今後の積極的な利用が期待される。

最後に同センター主席研究員の十川好志氏は、アメリカで10万種類に及ぶ細菌ウイルスのゲノム配列解析プロジェクトがスタートし、全土に6~8ヶ所のビッグデータセンターの建設を申請していると、最新情報を紹介。ビッグデータ解析への流れが加速しているとし、「今回の講演内容を今後の学術研究や企業の新製品開発に役立ててほしい」と締めくくった。



植田 充美氏
京都大学大学院農学研究科 教授
バイオ計測プロジェクトプロジェクト長



藤田 信之氏
(独)製品評価技術基盤機構
バイオテクノロジーセンター 上席参事官



町田 雅之氏
(独)産業技術総合研究所
生物プロセス研究部門 総括研究主幹



竹山 春子氏
早稲田大学理工学術院
先進理工学部生命医科学科 教授



福崎 英一郎氏
大阪大学大学院工学研究科
生命先端工学専攻 教授



森坂 裕信氏
京都大学大学院農学研究科 助教



藤岡 航氏
京都大学 iPS 細胞研究所
増殖分化機構研究部門 教授



南野 直人氏
国立循環器病研究センター研究所
分子薬理部 部長

同志社ビジネススクール MBA公開講座

日本経済復活に向けた中小、ベンチャー企業の経営戦略
～同志社ビジネススクールで学ぶ考察力と実践力～

主催：同志社大学大学院ビジネス研究科（同志社ビジネススクール）
後援：KRP（株）

グローバル時代を生き抜く経営戦略とは 個性あふれる中小・ベンチャー企業論

グローバル経済化の進展と経済情勢の好転の兆しの中で経営戦略を模索する中小・ベンチャー企業経営者に向けた同大ビジネス研究科による特別公開講座。基調講演では同研究科の浜教授が、中小企業を“小宇宙”にたとえて、感受性を持って豊かな自己展開が図れる中小企業こそ、地球経済を制することができるかと指摘。「シェアからシェアへ」を合言葉に、“奪い合いのシェア”ではなく“分かち合いのシェア”を掲げて「多様性と包摂性が出会う場所」を目指すべきと述べた。研究科長の北教授は日本企業のイノベーションの担い手としてのベンチャー企業について、村山教授は「伝統産業グローバル革新塾」の取り組みから得られた教訓を紹介。児玉教授は多摩地域および京都の製品開発型中小企業の成功事例を基に、ものづくりベンチャーの経営戦略について語った。講演後「多様性と包摂性が出会う場所をどうつくるのか」「現状に対する解決法を」といった来場者からの質問を議題に、全講演者によるパネルディスカッションが行われた。



浜 矩子教授
基調講演「小宇宙こそ地球を制す：中小企業が示すグローバル時代の支え方」



北 寿郎教授・研究科長
「イノベーションを支えるベンチャー企業」



村山 裕三教授
「伝統産業の文化ビジネスへの転換戦略」



児玉 俊洋教授
「ものづくりベンチャーの経営戦略：製品開発型中小企業の実例を基に」

ビジネスミーティング・アジア2013 in Kyoto

主催：KRP（株）、アジアサイエンスパーク協会（ASPA）

6カ国から22社の企業が来日。日本企業15社とアジアにおける新たな事業展開に向けた情報交換や個別商談を行った

成長を続けるアジア各国の最新動向や現地情報を収集できる国際商談会、ビジネスミーティング・アジア2013 in Kyoto。アジアでのビジネス展開を目指す企業を対象として、KRP（株）とASPAが共同で開催した。3回目となる今回は、香港・インド・インドネシア・韓国・タイ・ベトナムの6カ国から、ICTをはじめ電気・電子、機械分野などの企業22社が来日。日本からは15社が参加した。

午前の部では、海外企業11社によるプレゼンテーションが行われ、午後の部では個別マッチング商談会を実施。サイエンスホール一面に設けた21カ所のテーブル席では、互いの業務内容や事業実績、取り組みについてデータや製品見本を用いて熱心にやりとりする光景が見られ、計70件以上の個別マッチングが繰り広げられた。

これまで日本と韓国の2カ国間で行なってきたが、今回初めて複数国参加での開催となった。個別マッチングの場では、アジア各国の企業と日本の企業だけでなく、海外企業同士の商談も実施。KRPで生まれた新たな絆が、今後大きく発展することを期待したい。



テナントさま交流・PR展示会

KRP-WEEKのメインイベントの一つ「テナントさま交流・PR展示会」。今年は38のブースが設けられ、KRP地区で活動する企業や団体が製品やサービス活動をKRP地区内外にPRした。各ブースでは、商品実物の展示やデモンストレーションが行われ、熱心に説明を聞く来場者の姿が見られた。また、同一会場内で「オープンソースカンファレンス2013kansai@Kyoto」も開かれており、IT分野の出展ブースでは、昨年度と異なる来場者層と交流できたという声もあった。



Ruby@709.ch ウェブアプリ開発ワークショップ

主催：709.ch

9号館に入居する709.chが、プログラミング言語の一種“Ruby”で書かれたアプリケーションフレームワーク“Ruby on Rails”を使い、ウェブアプリを開発するワークショップを開催した。初心者からプログラマー、学生まで約40人の参加者が取り組んだのは、お気に入りサイトを集めて自分専用ギャラリーが作れるアプリの作成。開始直後はそれぞれ無言で作業に熱中していたが、ステップが進むにつれ和やかな雰囲気となり、スキルを磨く貴重な時間を共有した。



映像制作ワークショップ XIO

～やってみよう！プロが教える映像レシピ～
主催：（株）x10studio（クロススタジオ） 共催：KRP（株）

スタジオ棟に入居する映像制作会社x10studioが、自社商品やサービスのPRに映像を活用してもらおうと、初心者向けのワークショップを開催した。課題は“新発売の栄養ドリンク”のCM。企画やコンテの作成から撮影、映像編集まで、一連のノウハウをスタッフが丁寧にレクチャー。デジカメとフリーソフトなど身近なツールだけでクオリティの高い作品が制作できることを紹介した。短時間で課題に取り組んだ参加者は、創作の楽しさを味わうとともに、映像によるPRへの意欲を高めた様子であった。



京都府中小企業技術センター関連イベント

環境セミナー～化学物質規制の最新動向～<後援：(公財)京都産業21>
 施設見学ツアー/夕暮れ施設見学ツアー/研究発表会<共催：京都府
 中小企業技術センター協会>/中セン体感ツアー/EMC技術セミナー

主催：京都府中小企業技術センター



(上)研究発表会 (左下)ポスターセッション(交流会) (右下)環境セミナー



京都府中小企業技術センター(以下センター)では、7月26日の環境セミナー～化学物質規制の最新動向～を皮切りに、センターの活動内容を紹介する機会として施設見学ツアー・中セン体感ツアーや研究発表会、8月2日のEMC技術セミナーまで多彩なイベントを開催。京都府の技術支援に特化した機関としての取り組みや研究成果などをアピールした。施設見学ツアーと中セン体感ツアーでは、研究開発や品質管理に携わる61人が参加、センターの保有機器や活用方法を見学・体感し、センターの技術支援の内容に触れる場となった。

京都市産業技術研究所 市民オープンセミナー

～夏休みの思い出にものづくり技術の体験を～

主催：京都市 共催：京都ものづくり協力会



京都クラウドコレクション2013

「社会が変わる！ オープンデータ×ビッグデータ」 ～新たなクラウド戦法、いつやるの?～

主催：(公財)京都高度技術研究所、ITコンソーシアム京都、KRP(株)
 共催：京都商工会議所、京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、
 京都コンピューターシステム事業協同組合、NTT西日本 京都支店
 後援：京都市
 企画：京都クラウド・ビジネス研究会



林 雅之氏
 国際大学GLOCOM客員
 研究員(NTTコミュニケー
 ションス動務) (左上)

津田 邦和氏
 全国SaaSベンダー連合
 会代表、NCRI(株)会長
 (右上)

北村 森夫氏
 京都クラウド・ビジネス研
 究会、(株)ワードシステム
 企画戦略担当部長
 (左下)

谷井 等氏
 シナジーマーケティング(株)
 代表取締役社長 兼 CEO
 (右下)

これからのビジネスは「オープンデータ」や「ビッグデータ」をいかに活用するかが重要なカギを握ると言われている。基調講演では国際大学GLOCOMの林氏が、海外でのビジネス活用例や国内の各自治体における取り組み等の紹介を通して、5兆円程度の経済波及効果が期待されるオープンデータについて解説。また、京都クラウド・ビジネス研究会の北村氏は、市が公開する歴史資料データを活用したアプリ開発を例に、京都におけるビジネスモデルの提案を行った。パネルディスカッションでは全国SaaSベンダー連合会代表・津田氏をコーディネーターに、林氏、北村氏、シナジーマーケティング(株)の谷井氏が、民間企業でのビッグデータ活用事例から、オープンデータによるビジネス活性化の可能性について議論を展開。大勢の参加者が熱心に耳を傾けていた。

京都産業育成コンソーシアム連携事業 「機器活用オープンディ」

主催：京都産業育成コンソーシアム
 [連携：京都府中小企業技術センター、京都市産業技術研究所、
 (公財)京都産業21、(公財)京都高度技術研究所]



京都産業育成コンソーシアムでは、KRP地区内の公的支援施設が保有する機器の活用を促すため見学会を実施した。京都府中小企業技術センター、京都市産業技術研究所、京都バイオ計測センターの3施設の見学会を行い、のべ30人が参加。担当職員らが機器の特徴や分析・実験の手順などの説明を行なった。

食育WEEK KRP



食育シンポジウム ―世界に誇る和の食文化―

主催：大阪ガス(株)、京都府、きょうと食育ネットワーク
 後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市

基調講演(小泉 武夫氏/東京農業大学名誉教授)



小泉 武夫氏



山田 啓二知事

昨年、ユネスコの無形文化遺産に登録申請された「和食」が今年12月の結果発表を控え、各所で注目を集めている。「世界に誇る和の食文化」をテーマに開催された食育シンポジウムも250人の参加者が集い、京の食文化と縁の深い和食の話に興味深く聞き入った。

山田啓二知事は「子どもたちが食文化を受け継ぎにくい環境では日本人の繊細な味覚が養われない。我々の誇りである和食を無形文化遺産に登録し、しっかり保存していきたい」と挨拶。小泉氏による基調講演では、健康・長寿の背景には和食があること、食生活は身体と心の健康に大きな影響を与えること、日本人にとって和食文化がいかに大切かがさまざまなデータと共に提示され、参加者の関心を引きつけた。

また、京都府の食育活動に携わる茶農家・下岡久五郎氏と料理研究家・杉本節子氏がそれぞれ「宇治茶の魅力について」「京商家の食文化とおぼんざいの伝承について」と題し、事例報告を行った。

和食をユネスコの無形文化遺産に! 京の名店ワンコインフェスティバル

主催：日本料理文化博覧会実行委員会



夏休み親子料理教室 ～手づくりごはんecoを学ぼう!～

主催：大阪ガス(株) 京滋リビング営業部



京都府警察 ふれあいコンサート& ミニサイバー防犯教室

主催：京都府警察

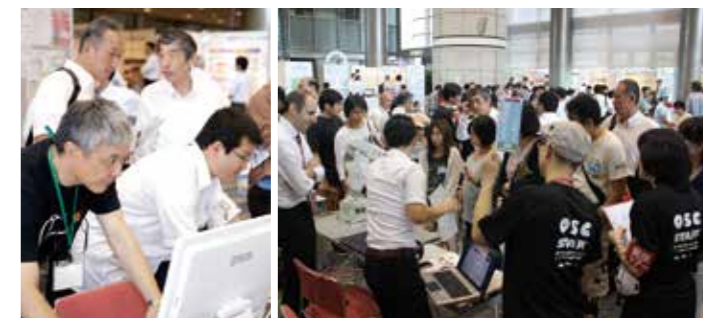
KRP-WEEK最終日の8月3日は、西地区屋外駐車場にて京都府警察音楽隊・カラーガード隊によるコンサートと、ミニサイバー防犯教室が行われた。人気アニメのテーマソング演奏や、府警のシンボลมスコット「ポリスマろん」の登場に子どもたちも大喜び。防犯教室では情報セキュリティの注意点を示し、インターネットの安全な楽しみ方をアピール。なお、京都府警察サイバー犯罪対策課は別会場で開催された「オープンソースカンファレンス2013」にも参加し、ブース展示とセミナーでサイバー犯罪の現状と対策を訴えた。



オープンソースカンファレンス2013 Kansai@Kyoto

主催：オープンソースカンファレンス実行委員会
 協力：KRP(株)

IT技術の開発者や企業が一堂に会する「オープンソース」の見本市、OSCが今年もKRP地区で開催。8月2日・3日の来場者数は、延べ1,300人。約70のブース展示・セミナーはいずれも盛況で、閉会式、懇親会まで、大いに盛り上がった。





公益財団法人京都高度技術研究所 (ASTEM) イノベーションネットアワード2013「経済産業大臣賞」を受賞



(左から)西本 清一理事長、江川 博専務理事



表彰式での講演に臨む西本理事長

KRP東地区に位置する公益財団法人京都高度技術研究所(ASTEM)が「イノベーションネットアワード2013」の最高賞である経済産業大臣賞に選ばれた。この賞は全国イノベーション推進機構ネットワークと(一財)日本立地センターが主催し、地域産業の振興・活性化に取り組む優れた先進事例をたたえるもの。

ASTEMでは「総合産業支援事業」として、企業の状況に応じたきめ細かな支援を行う体制を作るとともに、産学公連携のネットワーク構築やオスカー認定制度など産業全体を底上げする土壌作りにも取り組み多くの成果を生んでいる。

西本清一理事長は「製品開発型が多い京都の中小企業をワンストップで支援で

きる環境が、25年かけて整ったことへの評価」と話し、江川博専務理事は「京都市成長産業創造センター開所を含め、新たなビジョンが始まる時であり、励みになる」とそれぞれ受賞の喜びを語った。京都のみならず日本全体の産業に対する科学技術の普及にも役立ちたいとするASTEMの今後の活動にますます注目が集まる。

KRP One-Coin WORKSHOP at the TATLER

主催: KRP (株)
共催: 京都大学デザインスクール
(京都大学大学院デザイン学連携シンポジウム)

地下ランチから“新しい何か”が生まれる 「第1回 KRPワンコインワークショップ」開催

日時: 2013年7月9日(火) 12:00~13:00
場所: KRP 1号館地下 交流スペース タトラー
担当: KRP(株) 山口 075-315-8522



IT系以外の人も集まった第1回。次回以降のスピーカーも募集中



新しいコミュニケーションの場として、ぜひ活用を

美味しいランチを食べながら、テーマや業種にこだわらず気軽に交流の輪を広げられる「ワンコインワークショップ」がスタートした。今春、9号館にデザインイノベーション拠点を開設した京都大学デザインスクールの教員・学生らとKRP(株)産学公連携部が中心となり開催。約3,000人が働くKRP地区の、新しい発想や活動を生み出す異業種交流の場として設けた。

第1回は、1号館地下の交流スペース「タトラー」を会場に、Webシステムやアプリケーションの企画開発を手掛けるイントフロント(株)・代表取締役社長の龍野優也氏が、GUI(Graphical User Interface)のアプリ開発におけるデザインの考え方や流れ・留意点についてスピーチ。京大デザインスクールからはプログラムコーディネータの石田亨教授は

じめ教員・学生ら10人と、KRP地区内のIT関連企業のほか医療などの分野から約20人が集まった。質疑応答の後、隣り合わせた人同士や初めて出会う大学関係者などと話に花を咲かせ、いつもと違う“地下バー”でのランチタイムを楽しんだ。今後も月1回の開催を予定しており、KRP地区内の入居企業限定で随時参加を募っている。



モデロール

(株)Modelor 代表取締役 西田 陽介氏(6号館3階)

1987年生まれ。高校卒業後、独学でデザインを学び、同志社大学文化情報学部でデータ分析学を専攻。UI/UXを研究。グリーンロードモーターズ(京都)、米国法人REVENTIVE(シリコンバレー)を経て2013年独立。

人をハッピーにできて結果も出せる UXデザインを目指しています。

現在、UXデザインを軸に、ソフトウェア、ハードウェア、教育の3部門で開発事業を行なっています。UX(user experience)は、ユーザーが製品やサービスを使用した時の経験について、利便さや使い勝手だけでなく楽しさや心地よさまで含めてとらえる概念。ビジュアルデザインはもとより認知科学や心理学、データマイニングなど幅広い知見やセンスが必要です。

小さい頃からレゴなどで遊ぶのが好きで、クリエイティブな仕事をする会社を作りたいと思っていました。会社経営にはデザインが必要だと思い、高校卒業後、浪人しながらビジュアルデザインを勉強。そして、デザイン同様に重要だと考えていた情報を身につけるため、大学ではデータ分析学を専攻しました。一つのデータからより多くの情報を的確に読み取る学問です。勉強するうちに、認知科学と出会い、デザインとデータ分析、心理学など自分の興味と経験の全てが活かせる分野だと思いました。その後、勉強だけでなく実践してみたいとスタートアップ企業で現場を経験しました。その時に知り合ったメンバーと立ち上げた会社「REVENTIVE」が個人投資家の目にとまり、資金援助を受けシリコンバレーで活動。その時に開発したアプリ「Close」は、コ

ンセプトもUIも高く評価をしてもらい、大型の資金調達につながりました。その後、独立してModelorを立ち上げました。

UXを事業にしたきっかけの一つは、大学時代に会った一冊の本、D.ノーマンの『誰のためのデザイン?』です。チェルノブイリ原発事故が、非常にわかりにくいスイッチのデザインによって発生したとする彼の説に衝撃を受けました。社会で発生する人為的なミスは、デザインによって防ぐことができる、デザインで人を救うことができると感銘を受けました。そして、「デザインで世界を救いたい」と思ったのです。

しかし、「世界を救う」は個人的に非現実だと考えているので、一人ひとりの顔が見える「街」を作り、そこで暮らす人をハッピーにしたいと考えています。夢のような話に思われるかもしれませんが、例えば街一つ分の食糧を確保するための農業も、データ分析を行いワーキングスタイルを効率化していけば不可能ではありません。今は収益化しやすいIT分野の事業に力を入れていますが、平行して農業とインテリアの分野でも「人をハッピーにできる」デザインに取り組み、街づくりに向け事業を展開していきます。

子どもの頃は、テレビ番組制作などを手がけていた祖父と話をするのが好きでした。大変な読書家で、子どもだった自分を相手に真剣にディベートをし、刺激と知識を与えてくれる尊敬できる存在でした。その祖父にお願いして買ってもらったiMacが「デザイン」に対して関心を持ったきっかけです。5つのカラーを効果的に使った鮮烈なCMに目を奪われました。「デザインは人を魅了する」と、子どもながらに直感したように思います。そして、iMacを使いオンライン上につくられた仮想空間「セカンドライフ」を始め、そのなかで世界の第一線で活躍するクリエイターたちと出会い、大手広告会社のクリエイティブチームの方と共に仕事をする機会に恵まれました。祖父のおかげで、今の仕事につながるネットワークや考え方を培うことができたと感謝しています。

社名の「Modelor(モデロール)」は、ものやサービスの原型である「Model」と黄金分割を意味するフランス語「Section d'or」を合体させた造語です。あらゆるカテゴリーのモデルとなって増幅していけるようなサービスや製品をつくり出したい、そして会社自体が優れたUXを実現する環境やシステムの理想でありたい、という思いを込めています。UXというまだあまり浸透していない分野ですが、結果を出しながら人を幸せにすることを念頭に、一つ一つの案件に取り組んでいきます。

6号館 307



Modelor

UX事業を中心とした自社サービスの他に、UXデザイン、UIデザイン、iPhoneアプリ、Androidアプリ、Webサービスの受託開発をしております。代表的な自社サービスは、6月に公開し各メディアで取り上げられた学習するRSSリーダーの「Presser」。今後も、「ユーザーのハッピー」をテーマに様々な事業を行なって参ります。

株式会社Modelor
西田 陽介 代表取締役
●TEL/075-925-6439
●FAX/075-925-6439
●URL/http://modelor.com
●MAIL/info@modelor.com

6/30

VIOのパネルも展示
TEDxYouth@Kyoto 2013

世界初!多大学間連合によるTEDxイベント

世界初となる多大学の大学生の連合によるTEDxイベントが京造形芸術大学にて開催され、総勢12組の多彩なスピーカー・パフォーマーが登壇した。次世代の熱気が溢れるなか、成長企業支援部では、VIO(ベンチャーインキュベーションオフィス)のパネルを展示し起業支援サービスを紹介した。9月29日(日)にはTEDxKyoto 2013が京都外国語大学にて開催される。

7/12

「アートと地域の可能性を探る」

芸術祭をつくる側、作品をつくる側、そして楽しむ側
三者の立場、目線で意見を交換



BEPPU PROJECT前事務局長の林暁甫氏と京都国際現代芸術祭を担当する京都市文化芸術企画課の原智治氏をゲストに迎え、「アートが地域活性とどう結びつくのか」「文化芸術施策の可能性」などについて参加者と共に探るイベントを開催した。別府、京都の事例を紹介し、芸術祭の意義や抱える課題などについて意見を交換した。30人を越える参加者が集まった本イベント。アートや地域に対する想いを語り合い、盛況のうちに終了した。

- KRP成長企業支援部ブログ <http://www.krp.co.jp/sks/vio/newsblog>
- 町家日記 <http://www.krp.co.jp/machiya/blog/>

7/26

第8回「Kyoto.LT」勉強会を開催

今回のテーマは「IT関係全般、書評(技術書推奨)、LifeHack」



KRP1号館地下の交流スペース「タトラー」にて、KRP地区内のIT系企業の有志が参加する勉強会「Kyoto.LT」が開催された。発表者12人が各5分の持ち時間の中で、テーマに沿ったショートプレゼンを次々と繰り広げ、その後、参加者による懇親会が行われ活気に満ちた勉強会となった。

11/13

【予告】第30回七本松落語会開催決定!

記念すべき第30回は、豪華ゲスト&爆笑大喜利のスペシャルナイト



いよいよ第30回を迎える七本松落語会。これを記念し、笑福亭飛梅、桂紅雀、桂かい枝、林家染弥の豪華な出演者に加え、特別企画「爆笑大喜利」も開催予定だ。秋の夜長を笑いで彩る第30回七本松落語会へぜひ足を運んでほしい。

詳しい内容はWEBでチェック!



今年も開催!
KRP七夕まつり

日時: 7月30日(火) ※京の七夕協賛事業

KRP地区と近隣の皆さまへの感謝を込めて毎年恒例の「七夕まつり」を開催しました。今年は、京都市の条例にならい伏見酒造組合のご協力のもと日本酒の乾杯でスタート。京都フィルハーモニー室内合奏団による演奏会をはじめ、おなじみの縁日コーナー、抽選会で賑わい、楽しい夏の夕べをご来場の皆さまと共にご過ごすことができました。



さらに
9.10.11月の
開講講座

KRPイノベーションクラブ

年間フリーパスのほか、
1回だけの申し込みも可能になりました!

9月18日(水)

● [Movie]初級経営数字~初めて損益計算書・貸借対照表を見る方対象~/3,000円(税別)

10月10日(木)

● 小さな会社をブランドにするビジネスモデル/5,000円(税別)

10月30日(水)

● [Movie]問題解決力入門/3,000円(税別)

11月13日(水)

● ビジネスパーソンのためのビジネス交渉術/5,000円(税別)

申込み・問合せはコチラ

京都リサーチパーク(株)営業企画室
075-315-8342 / tabaneru@krp.co.jp
<http://www.krp.co.jp/tabaneru/seminar.php>

※「束ねる」サービスはKRP地区入居企業の皆様のためのサービスです。
一般企業の方は一度ご相談ください。

編集後記 9月に入ったとはいえまだまだ暑く、クールビズの期間も年々延長されていっているように思います。さて、今号は7月26日から9日間かけて開催したKRP-WEEK特集号です。ほとんどすべてのイベントにお邪魔し、写真撮影をさせていただきました。撮影にご協力いただいた皆さまありがとうございました。熱気に包まれた真夏のKRP-WEEKの様子を少しでも感じていただければ幸いです。

配送・停止・変更のご希望は、
右記内容を明記の上
krppress@krp.co.jpへ

配送 ① 〒、住所 ② 団体名 ③ 部署名 ④ お名前 ⑤ TEL/FAX ⑥ メールアドレス ⑦ 「配送希望」 ※定期配送も可能です
停止 ⑧ ご登録No.(封筒宛名ラベル右下) ⑨ 「配送停止希望」
変更 ①~⑥のうち変更箇所と⑧のご登録No.

vol.132
Sep
2013

KRPRESS www.krp.co.jp

○編集・発行/京都リサーチパーク株式会社 〒600-8813 京都府京都市下京区中堂寺南町134番地 (ASTEM棟4階)
TEL: (075) 315-8342 FAX: (075) 322-5348
○編集長/鈴木和哉 ○取材・編集・デザイン・制作・印刷・配送管理/株式会社情通レジナンス

KRP News Mail 配信中

メルマガをリニューアルしました!
<http://www.krp.co.jp/pub/maga.html>